

# 平成30年度全国学力・学習状況調査の本校の結果について

越前町立萩野小学校

みだしの調査について、本校児童の実態と今後の取り組みについてお知らせします。保護者や地域のご協力とご理解のもと、児童一人ひとりのさらなる成長のために、生活習慣や学習習慣をよりよいものにしていきたいと考えています。

## 調査の概要

- 調査実施日 ; 平成30年4月17日(火)  
調査対象 ; 小学校6年児童(11人)  
調査内容 ; 教科に関する調査
- ・主として「知識」に関する問題(国語A、算数A)
  - ・主として「活用」に関する問題(国語B、算数B)
  - ・理科に関する「知識」「活用」の問題
- ; 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- ・児童に対する調査
  - ・学校に対する調査

**留意事項** 本調査で測定できるのは特定教科の学力の一部であること、また学校における教育活動の一側面に過ぎないものであり、序列化や評定を目的としたものではない。

## 教科に関する結果

どの教科の正答率も、本校は全国平均と同じくらいであるが、県平均より低い傾向にある。特に国語Bと理科で正答率が低かった。しかし、無回答がほとんどなく、問題にしっかりと取り組んでいこうという姿勢は感じられる。

本校の教科の調査結果					
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
福井県との比較	△	△	○	△	△
全国との比較	○	△	○	○	△

◎・・・3. 1ポイント以上上回る
○・・・±3ポイント以内
△・・・3. 1ポイント以上下回る

## 教科ごとの詳細

### 国語

- 1 良好な点
  - ・慣用句の表現の意味とその使い方が理解できている。
  - ・文の中で正しい漢字を使うことができる。
- 2 課題のある点
  - ・目的や意図に応じて内容の中心を明確にして書いたり、意図を捉えながら自分の意見と比べて考えを書いたりすること、また他のものと比較して書くということができていない。
- 3 課題に向けて取り組むこと
  - ・問われていることに的確に答えられるよう、普段の授業でも問いに対しての答え方の指導を行う。
  - ・説明文(新聞も含めて)や物語文、詩歌等様々な種類の表現に触れさせる。
  - ・授業の中で、考えたことを自分なりにまとめて書いたり話したりさせる。

## 算数

### 1 良好な点

- ・計算についての技能・知識や、数の大小、角の大きさなど量と測定に関する技能は、おおよそ身につけている。

### 2 課題のある点

- ・割合など数量関係の問題ができていない。
- ・示された情報をもとに問題を解いたり、示された考えを解釈して考察し、式ややり方を記述したりすることが苦手である。

### 3 課題に向けて取り組むこと

- ・日常でもグラフや割合等を多く使うようにする。
- ・学んだことを生活の中に活かす場を工夫したり、生活の場面での算数的な問いを考えさせたりする。

## 理科

### 1 良好な点

- ・鳥の観察の仕方や、人や鳥の体の仕組みなど生命に関する分野での理解や関心は高い。

### 2 課題のある点

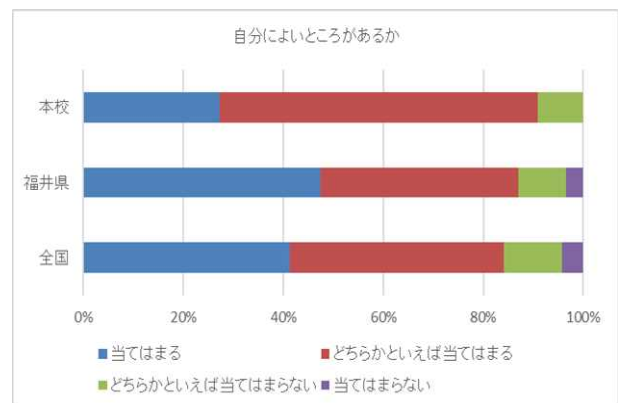
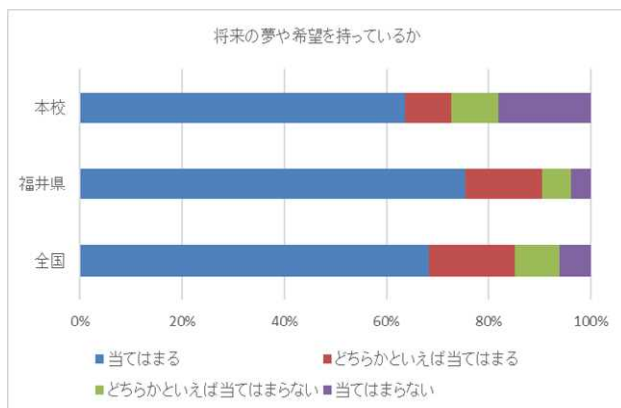
- ・土地の侵食や電流の流れ方について結果を見通した実験の構想が苦手である。
- ・実験結果から言えることを明確に記述できない。

### 3 課題に向けて取り組むこと

- ・観察や実験結果についての的確に文で表すようにさせる。
- ・実験をする際には、その実験を通して何を導き出すのかを考えさせたり理解させたりする。

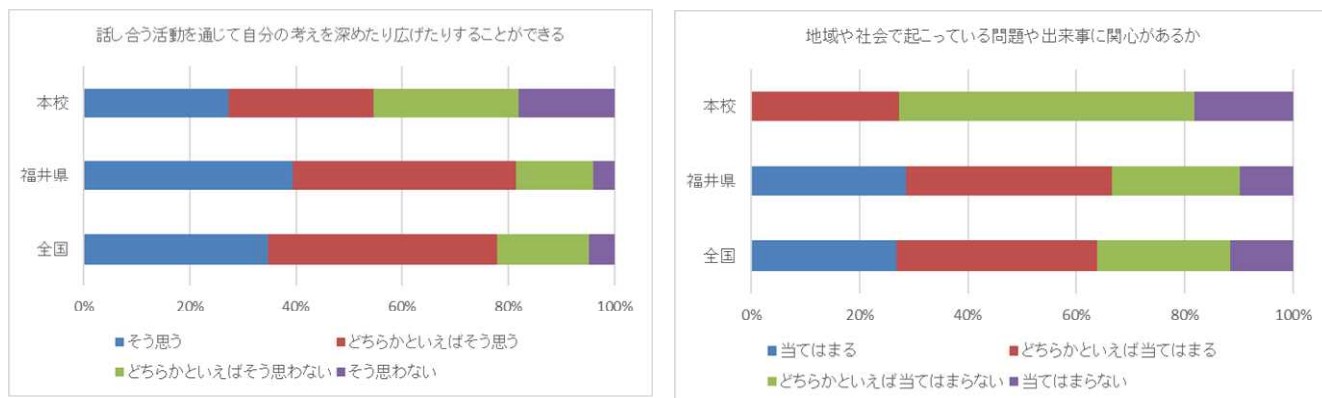
## 質問紙からの結果

決まった時刻に寝たり起きたりすることや、朝ごはんを食べるといった生活習慣に関わることはほとんどの児童ができている。また「自然の中で遊んだり自然観察をしたりすることがある」と答えた児童も90%いた。人の役に立つ人間になりたいとも全員が思っている。



一方、「将来の夢や目標を持っているか」については、持っていないという児童が27%いた。また、「自分にはよいところがあるか」の質問で積極的に当てはまると答えた児童は27%と県や全国平均よりかなり低い傾向にあった。将来の目標やなりたい自分がまだ漠然としていて、自分にあまり自信が持てないのではないかとと思われる。

また、「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広めたりできるか」という質問での肯定的評価は55%である。さらに、「地域や社会で起こる出来事に関心があるか」と答えた児童は27%、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えるか」と答えた児童も27%であり、県や全国と比べてもかなり低い傾向である。また、「新聞を読んでいるか」ではほとんど読まないと答えた児童は64%であった。これらのことから、本校の児童は社会への関心が薄く、そこから知識を得たり、考えたりすることが少ないと思われる。



今後、低学年からしっかりとキャリア教育を進めていくことや、一人一人の良さを認め、自信を持たせるような場面を多く作っていくべきだと考える。また現在地域と進める事業を行っているが、もっと地域に出かけ、地域の方と交流しながら地域のことを知ったり、地域のためにどんなことができるかを考えたりするような授業を組み立てていく。国語科や社会科などで積極的に新聞を使った授業を行い、折に触れ、時事に関心を持つように教師も投げかけていく必要があると考える。

### 保護者の方へお願い

本調査結果をふまえ、本校の児童の課題や現在学校で取り組んでいこうとしていることをお伝えしました。ぜひ、ご家庭でも次のようなことに取り組み、児童の成長を後押ししていただければ幸いです。

#### 1 よい生活リズムを続けましょう

「早寝、早起き、朝ご飯」は生活習慣の基本です。これがしっかりできていれば、学校生活もきちんとできますので、よい習慣は続けてください。また夜遅くまでゲームをしていたり、ネットをしていたりというお子さんもいるようです。スマートルールについても今一度確認してください。

#### 2 新聞を読む習慣をつけましょう

毎日の情報は、新聞よりもテレビやインターネットで知る児童が多いようです。しかし、新聞はいつでもどこでも読むことができるメリットがあり、物語文ではない文章を読むことで文章を読解する力もついてきます。故事成語や慣用句など教科書にはない言葉の知識を増やすこともできます。おうちで新聞を購読されているご家庭は、特に高学年のお子さんに新聞を読むよう促してください。

#### 3 ご家庭でいろいろな話をしましょう

高学年にもなると思春期に入る児童も出てきて、家で話をしなくなるかもしれません。しかし、学校で起こったことを聞いてあげることは、お子さんからいろいろな情報を得ることになりますし、お子さんの心の安定にもつながります。また、将来のことや生き方についてお子さんと話をすることで、これからお子さんが歩んでいく指針となるかも知れません。お忙しいと思いますが、ぜひお子さんと話をする時間を作っていただき、地域や社会のことも含めて話をしていただけるとありがたいです。